



2019 年度 事業報告書（案）

期間：2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

1. 活動総括

2017 年度以降、社会的に注目される交通事故や交通に関わる事件が相次ぎ、また、2020 年に道路交通法であり運転に罰則が科されたことなどにより、交通事故、交通違反行為等を視覚的に確認できるドライブレコーダーの有用性の認識が高まり、一般の自動車向けのコンシューマー用ドライブレコーダーの普及が進んでいる。引き続き、自治体やメディアからドライブレコーダー協議会への問い合わせが増加し、2016 年 10 月に一般社団法人として発足した本協議会の存在は、社会的に広く認知されていると思われる。

特に、月例で開催されている運営委員会と精力的に月例開催を行った複数の部会の活動によって、これまで懸案とされてきたドライブレコーダーに関する成果として、2019 年 3 月に公表した「ドライブレコーダーの推奨ガイドライン（基本要件編）」や内規としての「ドライブレコーダー製品テスト試験要領」などに続き、2020 年 3 月には初めて「ドライブレコーダー製品テスト結果」を公表するなど、本協議会の本来の目的の達成が実現に向けて軌道に乗り始めていると考えられ、重要な歩みをするしつつあると自己評価しているところである。改めて、これらの成果に貢献された会員各位に敬意を表するとともに、なお一層の成果に向けて、引き続き活動を活発化されるようお願い申し上げたい。

本協議会の活動は、このほかにも、従来のドラプリ中心の運営から広がりを見せ、自動運転に関する国土交通省のパブリックコメントに対して「自動運行装置」についての当協議会の意見を提出したほか、国土交通省から度々説明を求められ、また、自動車技術会や他学会において講演するなど、社会への情報発信も積極的に行う体制が整いつつある。また、ドラプリ 2019 についても、新たなコンシューマー向けドライブレコーダーの利用方法である自動車損害保険付帯のドライブレコーダーサービスを主要 4 社について取り上げ、100 名の参加を得ることができた。その他、ドライブレコーダー補償金制度の継続、他機関との連携・協力等も概ね順調に推移した。

協議会発足以来、ドライブレコーダーの認知度の急激な高まりに伴って、協議会の存在感も確実に高まってきている。しかしながら、協議会がドライブレコーダーを通じて交通安全への啓発活動に主体的に発信するという目標は高いところにある。部会活動におけるリソースの集中、財政的基盤強化のための方策立案、広範囲の業種会員間の意見交換、あるいは行事が東京集中であることへの対処等も必要であり、また、ドライブレコーダー協議会の将来構想についても、データ活用を中心にオールジャパン体制を目指した大胆な検討が必要な時期に來ていると認識している。次年度も引き続いて、協議会としてのリソースの向上を地道に探り、ホームページの抜本的な改修を含めて、外部へ有効な発信ができる体制の強化を図りながら、協議会の本来あるべき姿に向けて着実かつ大胆な方策を講じて参りたい。

2. 活動報告

1) 社員総会（全 1 回）

日程 2019 年 6 月 26 日（水） 15：00～

場所 株式会社堀場製作所 東京セールスオフィス 2F プレミアムホール

決議事項 第 1 号議案 2018 年度事業報告書の承認

第 2 号議案 2018 年度決算報告書の承認

第 3 号議案 役員の改選

第 4 号議案 定款の変更

報告事項 1. 2019 年度事業計画書

2. 2019 年度収支予算書

3. ADAS 部会の新設

2) 理事会（全 3 回）

① 定期理事会

日程 2019 年 5 月 15 日（木） 18：30～

場所 堀場製作所 東京セールスオフィス

議案 第 1 号議案 2018 年度事業報告書案の審議

第 2 号議案 理事退任及び専任の決議に関して

第 3 号議案 定款変更

第 4 号決議 総会の開催日時の審議

第 5 号議案 入会審査

② 臨時理事会

日程 2019 年 6 月 12 日（水） 18：50～

場所 堀場製作所 東京セールスオフィス

議案 第 1 号議案 2018 年度収支決算案の審議

第 2 号議案 ADAS 部会設立の承認

③ 定期理事会

日程 2020 年 3 月 30 日（月）

審議方法 書面審議

議案 第 1 号議案 入会承認

第2号議案 2020年度収支予算書案の審議

第3号議案 2020年度事業計画案の審議

3) 運営委員会

2019年 4月10日、5月15日、6月12日、7月24日、9月4日、10月16日、11月13日、
12月11日

2020年 1月15日、2月12日、(3月はコロナ禍により中止)

4) ドライブレコーダー・シンポジウム「ドラプリ 2019」

実行委員長 小林 恭二

1. 今回の「ドラプリ 2019」は、2019年11月21日13時～17時に、前回と同じ新橋の千代田区立内幸町ホールにおいて、「自動車保険とドライブレコーダー」をテーマに開催し、100名の参加を得ることができた。今回から、当協議会が単独で主催することとなり、後援についても前回同様12団体からの後援を受けての開催となった。これにより、少しずつではあるが、当協議会が社会的に認知度も上がり、一般社団法人としての信頼を得てきていることを実感した。また、今回初めて、従来の国土交通省以外に警察庁から複数名の参加があった。
2. 自動車保険をテーマに、国内を代表する4メガ損保各社にご協力頂き、一堂に会しての開催は、おそらく最初で最後ではないかとの声もあった。特に、各社揃ってのパネルディスカッションでは、各社の考え方や取り組みなど、丁寧に説明を頂き、このような稀な機会に同席された出席者にとっては有意義な内容となったのではないかと感じている。
3. 今回の出席者は100名であり、目標の150名には届かなかったが、講演集の印刷を廃止し、Webからのダウンロードとするとともに、講演集への広告やブース出展を取りやめ、試験的にスリムな運営を行った。広告収入などが無いマイナス面はあったが、講演原稿の直前までの差替えができた等のメリットもあり、結果的には大きな混乱もなく開催できた。

参加者層（内訳）：出欠リストより算出

1位はドライブレコーダー・メーカー、2位が保険関連、(ここまでは前回同様)

3位がドライブレコーダー関連商社（卸事業者）であった。

業種	参加人数
----	------

ドライブレコーダー・メーカー	26
保険関連	20
ドライブレコーダー関連商社・卸事業者	10
通信事業者	9
学術研究者	9
安全運転コンサルティング	5
自動車メーカー	5
緊急通報	5
官庁・団体	2
シンクタンク	2
教育関係	2
自動車部品メーカー	1
リスクマネジメント	1
車載部品製造販売	1
第三者認証機関	1
自動車コンサルタント	1
総計	100

5) 部会活動

① 製品テスト部会 部会長 小野 治良

製品テスト部会では、主にコンシューマー向け製品を対象に、月1回の月例の部会で会員各社の新製品や新しい機能等の情報交換やテスト治具の作成・改修について討議を行い、年1回の製品テストで記載内容と実機性能の整合性の確認を行った。

Web等で販売されている海外から輸入された廉価品の多くは、画角に関して「対角」の数値のみの商品が多いので、記載数値との乖離の程度を数値化するため、360°画角測定器に可動式「対角測定スケール」を追加した。

2019年度の製品テストは、2019年10月8日に11社13名の企業会員と審査員2名の計15名の参加の下、24社26機種の製品について確認を実施した。その結果については、かねてからの目標であった「製品テスト結果」の対外公表を、2020年3月30日に行った。

2013年度 9機種

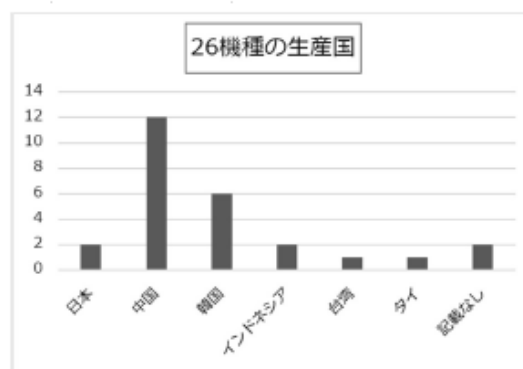
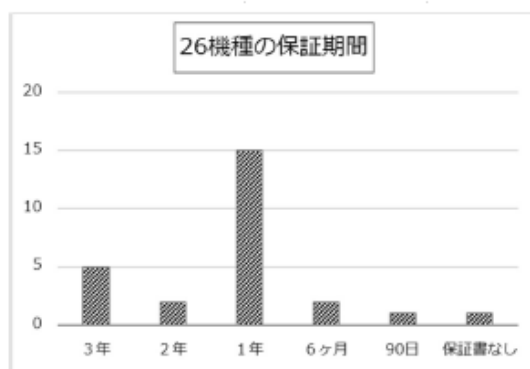
2014年度 9機種

2015年度 18機種

2016 年度 18 機種
 2017 年度 22 機種
 2018 年度 20 機種
 2019 年度（本年度） 26 機種

◇テスト機種

	対象メーカー	対象機種
会員	12 社	14 機種
会員外	12 社	12 機種
計	24 社	26 機種



② データ活用部会 部会長 堀野 定雄

データ活用部会は、ドライブレコーダーデータをいかに活用するかの観点から 2017 年度に準備会合を 4 回開催し、補償金制度による事故データ活用の前提条件の検討と具体的な活用方策に加え、会員保有のヒヤリ・ハット事故ビッグデータのビジネス化の方法を議論してきた。

これまでの活動計画では、補償金制度の事故データ活用方策について個人情報保護の見地から見舞金規程の妥当性を検証し、事故データの利用方法などの活用方針を定めることとした。また、会員保有のドライブレコーダーデータの活用策については、これまで活用例の少ないマイカー系のヒヤリ・ハット事故データを共有化し、データの有効活用によるビジネス化の可能性の検討を始めることとし、データ形式、独自のスコアリング指標、センサー感度の共通化など課題について、実現に向けた活用方策を提案することとした。その際、個人情報保護法の適合性に関し、匿名加工の方法と手段を明確にするため、外部有識者からの意見聴取を含めた検討を行うこととした。

参加者を会員から公募し、第 1 回データ活用部会を 2018 年 4 月に開催した後、2019 年度は、都合により部会の開催を休止し、部会長と幹事により検討を続けている。

③ 推奨ガイドライン作成部会 部会長 小林 恭二

推奨ガイドライン作成部会で継続的に検討している出力データの標準化の活動については、中心的に活動されていた会員の退会などもあり、内容を公表するには至らなかったもので、次年度への継続案件となった。また、新たな取り組みとして、ドライブレコーダーで使用する、SD カードについて、何らかのガイドラインを策定出来ないか、検討を始めた。

「ドライブレコーダーの推奨ガイドライン（追加要件編）」の継続的検討については、ADAS 部会と連携した活動によって ADAS を主軸に検討し、公表の準備段階となっている。また、国土交通省との連携などの案件も浮上していたが、新型コロナウイルスの影響により、事実上棚上げとなっている。

今後への活動内容として、現状継続案件の他、国土交通省などとの情報交換を含めた連携を目指すとともに、より幅が広がったドライブレコーダーに求められる機能、使用目的などに合わせたガイドラインの検討を行って行くこととしている。

④ ADAS部会 部会長 浮穴 浩二

2019 年 5 月 8 日に ADAS 部会設立趣旨提案書を会員社より受け、6 月 12 日の理事会で新設が決定され、6 月 26 日の総会で参加企業募集を開始した。7 月 17 日に準備部会を開き、21 会員が参加し、ADAS 部会の活動目的を「ドラレコ ADAS 機能の認知向上並びに普及促進」とした。

7 月 27 日に 1 回目の部会が開かれ、初年度は「ドライブレコーダーADAS 推奨ガイドライン」を策定する方針を決定した。3 月まで毎月部会を開催し、上記ガイドラインと ADAS ガイドライン解説編を作成し、簡易型、発展型、外部機器接続型の 3 種類の定義とガイドラインを作成し、ドライブレコーダーガイドラインに組み込んだ。解説編は、ガイドラインと共に発表する予定である。

また、評価用 Reference として、Japan21 より希望会員に Mobileye (ME570) の無償貸し出しを受け、個人会員 2 名が設置したので、来年度に報告を行うこととしている。

⑤ 広報部会 部会長 鳥塚 俊洋

2019 年度は、引き続きあおり運転等によるドライブレコーダーへの社会的関心が高く、読売新聞、日経新聞、中日新聞、信濃毎日新聞を始めとしたメディアへの取材対応を行うとともに、自動車技術会 GIA フォーラム、総合事故分析センター(ITARDA)、日本交通心理学会、日本画像認識協会セミナー等からの要請を受け、会長、広報部会長、技術広報部会長等が講演を行った。

ただし 2020 年に入ってから、社会が新型コロナ対策一色となったため、目立った広報活動は行えていない。また、ホームページ活用のための改修、ニュースリリースの積極的な発表については 2020 年度への課題となった。

⑥ 技術広報部会 部会長 久保 登

技術広報部会は、主に対外的に技術的な内容の広報活動を行う。2019 年度は、以下の講演等を行った。

- ・ 2019 年 5 月 29 日 交通事故総合分析センター (ITARDA) 講演@東京
「ドライブレコーダーデータでわかること」
- ・ 7 月 7 日 交通心理学会 講演@同志社大学
「ドライブレコーダーデータを用いてわかった交通安全指導のポイント
～ドライバー視界を中心に～」
- ・ 8 月 26 日 豊田市交通安全学習センター打合せ@東京
- ・ 9 月 15 日 株式会社 L S I メディエンス 講演@岡山市
「本当に交通事故を防ぐにはどうすべきか～交通事故撲滅にむけて～」
- ・ 12 月 3 日 愛知県産業振興課 自動車安全技術プロジェクトチーム事故分析 WG 講演@名古屋大学
「車載映像からわかること～ドライブレコーダーデータの分析と活用～」
- ・ 12 月 13 日 画像認識協会 画像認識専門セミナー 講演@東京
「ドライブレコーダーデータでわかること」
- ・ 2020 年 3 月 名古屋港利用促進協議会 雑誌「名古屋港」寄稿
「ドライブレコーダー」

6) 勉強会・セミナー等

2019 年 6 月 26 日の総会開催に合わせ、以下の 2 つの勉強会を行った。

(事務局 小林恭二)

ア) 「先進安全技術を利用した交通安全対策」

国土交通省自動車局 技術政策課 先進技術係長 池田圭祐様

イ) 「自動運転車におけるドライブレコーダーの必要性」

ITS Japan 法務主査 佐藤昌之様

どちらの講演も、自動運転車に対しての国や民間の取り組み、実際に発生した自動運転車の事故を例に、自動運転の「記録」という部分を担うと考えられるドライブレコーダーの役割について講演して頂いた。

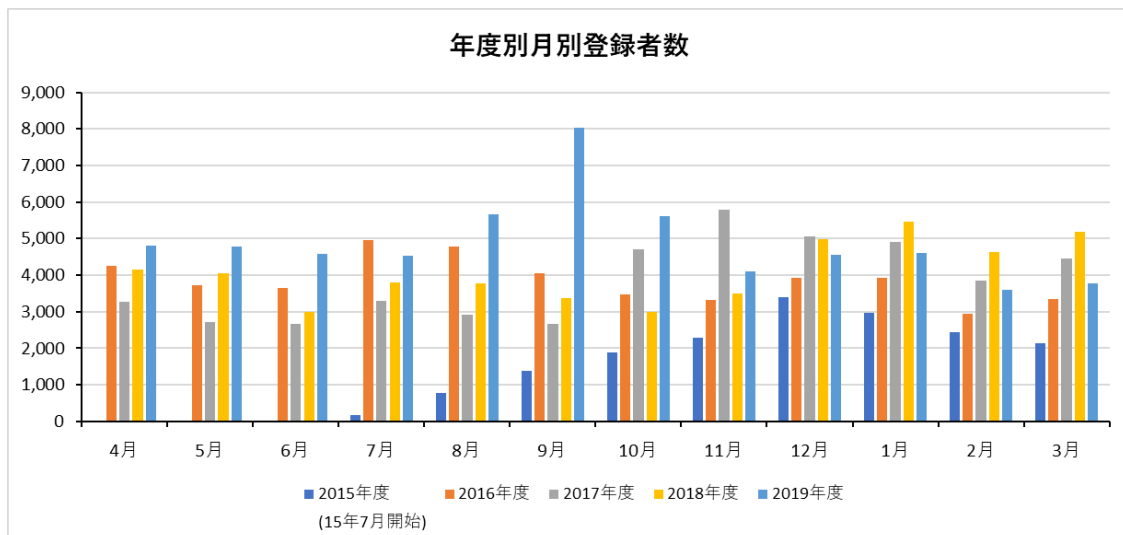
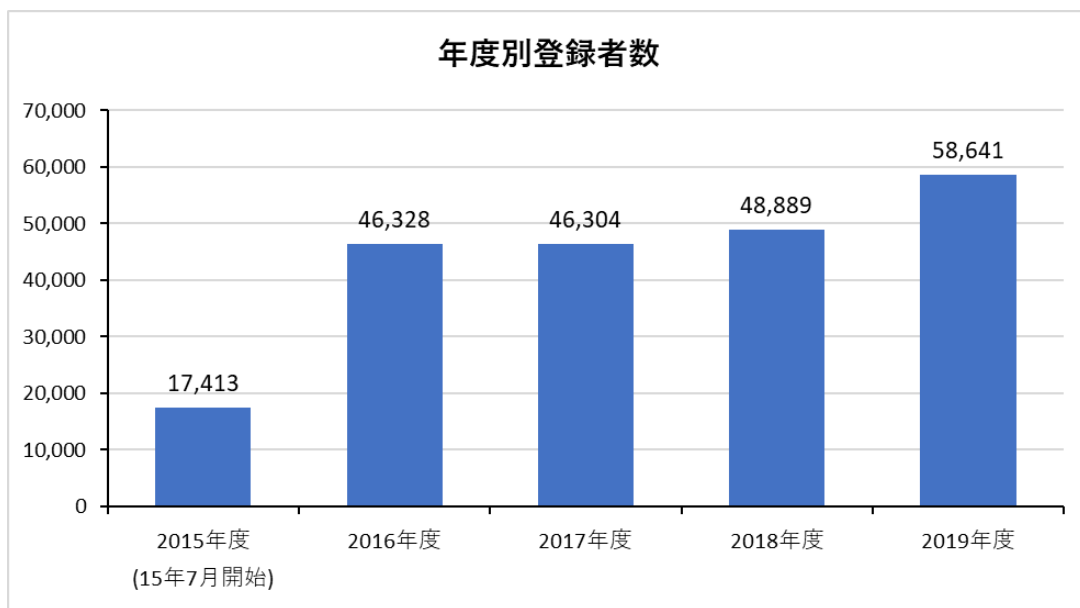
7) 交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度

2015年7月から実施している交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度における登録者数の推移は、下記の通りである。

総対象機種数 120 機種

2019 年度総加入者数 58,641 名

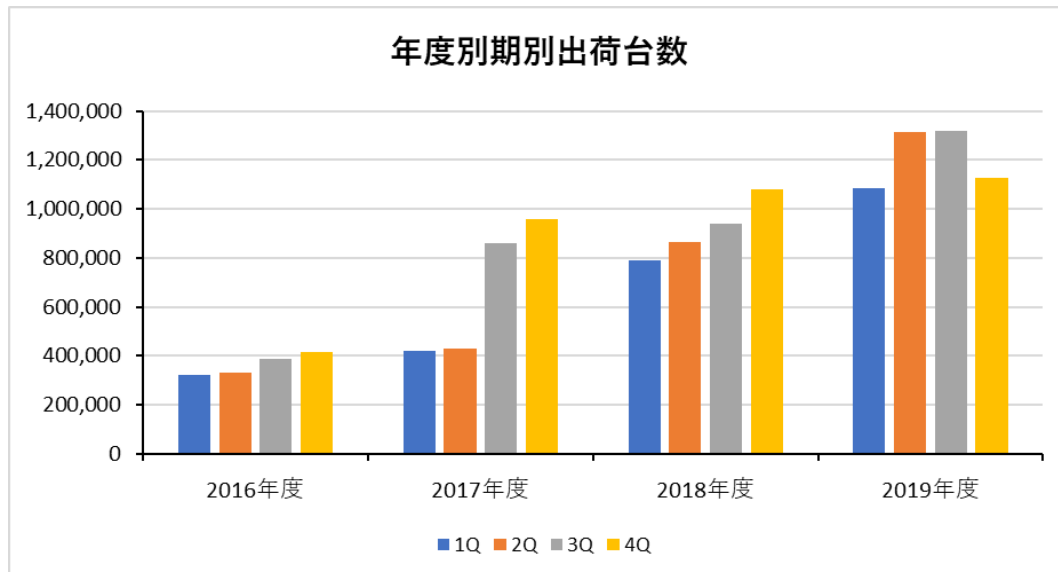
2019 年度事故件数 16 件



8) ドライブレコーダー 出荷統計

ドライブレコーダーの出荷台数の統計データについて、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）とタイアップで実施している。

2015 年における 1 年間のテスト運用を踏まえて、2016 年度より公表しているドライブレコーダーに関する工場出荷台数は、下記の通りである。2019 年度は、対前年に比べ増加となっているが、第 4 四半期は約 20 万台出荷台数が減少している。



9) 他団体との連携

2019 年 4 月	国土交通省自動車局技術政策課国際業務室 ドライブレコーダー推奨ガイドラインについて鳥塚副会長説明
2019 年 5 月	自動車技術会 2019 年春季大会 GIA フォーラム 映像情報活用の最前線「ドライブレコーダー協議会の活動紹介」 宮寄会長講演
2019 年 5 月	自動車技術会 2019 年春季学術講演会 「後付救急自動通報システムに関する一考察」 宮寄会長他 連名発表
2019 年 5 月	交通事故総合分析センター（ITARDA）久保技術広報部会長講演「ドライブレコーダーデータでわかること」
2019 年 5 月	自動車用品小売業協会（APARA）総会 鳥塚副会長、小林事務局長出席
2019 年 6 月	環境優良車普及機構 LEV0news76 号 鳥塚副会長出稿「ドラレコ基礎知識 Vol.3」
2019 年 7 月	日本交通心理学会 企業部会 久保技術広報部会長講演
2019 年 7 月	交通心理学会 久保技術広報部会長講演 「ドライブレコーダーデータ

	を用いてわかった交通安全指導のポイント～ドライバー視界を中心に～」
2019 年 8 月	豊田市交通安全学習センター 久保技術広報部会長意見交換
2019 年 9 月	(株)LSI メディエンス 久保技術広報部会長講演 「本当に交通事故を防ぐにはどうすべきか ～交通事故撲滅にむけて～」
2019 年 12 月	愛知県産業振興課 自動車安全技術プロジェクトチーム事故分析 WG 久保技術広報部会長講演 「車載映像からわかること～ドライブレコーダーデータの分析と活用～」
2020 年 1 月	画像認識協会 画像認識専門セミナー 久保技術広報部会長講演 「ドライブレコーダーデータでわかること」
2020 年 1 月	国土交通省 ドライブレコーダー啓発ちらし 鳥塚広報部会長制作協力
2020 年 3 月	「道路運送車両の保安基準等の一部を改正する省令案及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示等の一部を改正する告示案」のパブリックコメント 宮寄会長提出 ※「自動運行装置」
	名古屋港利用促進協議会 機関誌「名古屋港」 久保技術広報部会長寄稿 「ドライブレコーダー」